

## 黙祷と慰霊碑

たじま安全衛生好楽事務所  
安全衛生縦断 ころ旅④

全国安全週間中に各所で安全大会が開催され、労働災害によって亡くなられた方々への追悼の意を込めて、参加者全員で黙祷をささげます。1分程度の短い沈黙の間に、今を生きている皆様は“誰を 何を”思い浮かべますか。

ある工場の安全大会では、労働災害で亡くなられた方の実名を読み上げて、追悼と安全の誓いを込めて黙祷がささげられています。その方を知らない新入社員には、事前に雇入時安全衛生教育で労働災害の状況等を伝えています。

また、日本での黙祷の浸透は、関東大震災(大正12年9月1日午前11時58分発生)の慰霊祭で地震発生日時に合わせて黙祷したことからもいわれています。

全国安全週間中の安全大会に限らず、労働災害発生日時に合わせて慰霊祭を開き、慰霊碑※に献花、黙祷をささげるところもあります。

※ 労働災害に関する慰霊碑は、黒部ダム殉職者慰霊碑(富山県立山町:工事殉職者171名)が有名ですが、他にも炭鉱、鉄道工事によるものなどが全国にあります。

千葉県内にも松戸市和名ヶ谷に「国分川分水路トンネル水没事故の慰霊碑」があることをご存じですか。

この事故は、平成3年9月の台風18号の影響で松戸市にある国分川が氾濫して、隣接の分水路トンネル工事現場内に流水、坑口の仮締切の決壊によりトンネルが水没、坑内にいた掘削作業員4名と避難連絡のため坑内に入った3名の計7名が犠牲となったものです。

国分川分水路への入口にある和名ヶ谷水門を見下ろすように、千葉県知事、松戸市長による竣工記念碑と千葉県による慰霊碑が建てられています。

慰霊碑には“殉職者御芳名”と“碑文:殉職者を偲ぶ(平成3年9月19日 日本列島に猛威をふるった大型台風18号による洪水が 工事中のトンネル内に流入し 不幸にして7名の尊い生命が 分水路の貫通を目前にしてその志を遂げることなく無念の犠牲となった ここに殉職者の功績をたたえ冥福を祈念するものである 千葉県)”が刻まれています。

事故の詳細は、「失敗知識データベース失敗百選」([国分川 失敗](#))で知ることができます。



【慰霊碑(左)と竣工記念碑(中央・右)】

